

## 問 2 城北ブロックの消防広域化について

消防広域化の質問については、平成 21 年、昨年 の 6 月 議会 に 続 き 3 回 目 の 質 問 に な り ま す 。 そ れ か ら 本 年 の 6 月 議 会 で は 、 鬼 海 県 議 ・ 上 田 県 議 、 9 月 議 会 で も 増 永 県 議 、 そ し て 今 回 も 西 県 議 か ら も 質 問 が あ る な ど 、 み な さ ん 大 変 心 配 さ れ て い る 問 題 で あ り ま す 。 ま た 、 1 0 月 に 城 北 ブ ロ ッ ク の 解 散 が 決 定 に な り 、 特 に 山 鹿 ・ 植 木 広 域 消 防 本 部 の 抱 え る 問 題 も あ り ま す の で あ え て 質 問 さ せ て 頂 き ま す 。

これまで阪神淡路大震災、東日本大震災など大規模災害の恐ろしさを国民は体

験をいたしました。

昨年の私の質問の答弁で知事は「今回の東日本大震災を通じて、私は、改めて行政の最大の目標は、住民の生命、財産を守ることにありと考えております。また、その中核を担う常備消防の体制強化は、自治体にとって不断の行政課題と認識しております。」と答弁されました。

そして本年7月にかつて経験したことのない集中豪雨が北部九州を襲い、本県にも大きな災害をもたらしました。県として常備消防の体制強化を更に認識されていることと思います。

そのような災害リスクの高まりが指摘される中で、市町村の枠を超えた広域的な消防防災体制の整備が求められていま

す。しかし、現実には消防広域化が進むどころか反対に各ブロックで協議会の離脱や解散が相次いでいます。

一方、全国でも都道府県が策定する推進計画（平成24年4月現在）では807本部を276本部にする計画ですが、平成18年消防組織法改正後に広域化を実現した消防本部は10本部しかありません。本県のみならず、全国的にもなぜ広域化が進まないのか、大変疑問視されます。

そこで、まずは今回の消防広域化協議の中で、私の地元でもある山鹿市も参加した城北ブロック消防広域化協議会についてお尋ねします。

城北ブロック消防広域化協議会は昨年

7月に設立されて以降、6回にわたり協議が続けられましたが、今年10月には残念ながら解散の意思決定がなされたところでもあります。

質問の1点目は、城北ブロックでは菊池地域が不参加となったにもかかわらず、財政的な削減効果も出て、また、広域化することで現在よりも消防車や救急車の現場到着時間も早くなるといったメリットがあると聞いていた中で、どうして協議会が解散となってしまったのでしょうか、その原因をお尋ねします。

2点目は、今年7月12日の熊本広域大水害では、阿蘇地域を中心に甚大な被害が発生しました。その際、地元の阿蘇消防本部以外の県内11消防本部から、

5 日間にわたって応援活動があったと聞いております。県内各地でも豪雨災害が発生する中での応援活動には敬意を表しますが、広域化のメリットとして大規模災害への対応力の強化が言われて来ましたので、今回の災害で、仮に城北ブロックにおいて広域化が実現していた場合、組織の一元化により、どのような効果が想定されるのかについてお尋ねします。

最後に、城北ブロックの解散決定を受けて、山鹿植木広域消防本部においては、当面、これまで通り熊本市と連携を取っていかれると聞いています。しかし、例えば、7月の熊本広域大水害の際、旧植木町にある平島温泉が合志川の氾濫で被害を受けました。もちろん救助に出動す

る消防は山鹿植木消防広域本部であります。一方、旧植木町の消防団は熊本市の消防団でありますので、消防本部と消防団が異なるトップの下で救助活動をされるなど指揮の統一に万全とは言えない状況も出てきております。

今後、消防広域化が実現しない場合、熊本市と山鹿市の消防事務組合がいつまで続けられるのか、あるいは山鹿市は近隣の消防本部と広域化するのか、最悪の場合、山鹿市単独で消防本部を運営して行かなければならないのか、いずれにせよこの先の消防広域化が進まない場合、山鹿市は大変不利な立場にあります。このことは、山鹿市自体の問題ではあります。このこと、熊本市の政令指定都市実現に伴う

弊害とも言えるのではなかろうかと思っています。そうした意味において、政令市を推進された県として山鹿市の消防のおかれている現状をどう考え、今後どのような支援を検討されていかれるのか、以上3点について総務部長にお尋ねいたします。